



紙つづて

気象庁が富士山測候所で有人観測をしていた時代、静岡県御殿場市に基地事務所があり、十数人の職員が山頂の勤務を支援していました。私たちが管理するようになってからは、夏に二月月、アパートを借りて基地にしています。今年は節約のため、七月は研究者が交代で駐在です。

御殿場の朝は四時に始まります。六時に出発するブル（ブルドーザー）に荷物を積み込むため、五時にアパートを出て御殿場口千三百坪の太郎坊へ。荷物をブルに積むと、若い研究者たちは歩いて山頂へ向かいます。トイレの廃棄物などを積んでブルが下りてくるのは午後一時すぎ。夕方には基地に戻って次の研究者たちを待ちます。

気流が悪く、ヘリコプターが使いにくい

富士山の荷上げ

富士山の荷物運搬はブルが主役です。一九六四年の富士山レーダー建設を機に、馬に頼っていた運搬がブルへ換わりました。馬方組合のリーダーだった伊倉範夫さんが、石炭ガラでバランスを取り、スイッチバックなどを取り入れ富士山独特のブルの運行を確立したことは、日活映画「富士山頂」の中で勝新太郎演じる朝吉のモデルとして取り上げられました。

今は次男の秀雄さんが中心です。除雪作業に始まり、多少の雨風の中でも運行、人命救助も数えきれません。登山道の整備、山頂の神社、環境省のバイオトイレなどの物資運搬も担っているブルは、

富士山の仕事にはなくてはならないサポーターです。

（土器屋 由紀子＝富士山測候所を活用する会理事）

